

第2期武蔵野市環境啓発施設運営会議（第2回）議事要録

日 時 令和3年9月16日（木）開会 午後6時 閉会 午後7時30分

開催方法 Web会議システム使用によるオンライン開催

参加者 委員6名、事務局5名

小澤委員長、鈴木副委員長、宮坂委員、新保委員、越智委員、奥野委員

1 議事

(1) 食品ロス削減の取組について

2 報告事項

(1) 新型コロナウイルスワクチン接種会場使用について

(2) むさしの環境フェスタ実施概要について

(3) 環境の学校連続講座・Greenプロジェクト実施概要について

(4) 緑のカーテンレポート実施状況について

3 その他

委員意見・質疑及び事務局回答

発言者	要旨
	1. (1) 食品ロス削減の取組について
事務局	<p>資料1について説明。食品ロスは大きな問題だが、身近に感じている人とそうでない人がいる。身近に感じていない人に対しエコレポートで啓発を行い、行動変容を促す。SDGsのターゲットにも設定されており、持続可能な社会づくりをしていくために重要な要素であることは世界的に認識されている。エコレポートにおける啓発にどのような効果があるのか、大きな問題と身近な課題を組み合わせ、学びあいながら模索していく。</p> <p>世界では商品のために生産された食料の約1/3が廃棄されており、さらに食料の生産・廃棄によって多くの量のCO2が排出されている。また日本では輸入食品に依存している部分が大きく、食料自給率は37%。かつ一般廃棄物の処理には年間約2兆円を要している。市においては、食品ロスに対する計画や正確な計測について未着手の部分も多い。資料に記載されている可燃ごみの約28%と書いたのは、あるごみの1部をサンプルとして抜き取って組成分析をした結果、可燃ごみの約28%程度は食品ロスに当たるのではないかというような分析であり、また実施年やサンプルの場所によってかなり差が出ているので、参考程度にさせていただきたい。あらゆるごみの課題があるが、食品についても、大きな新しいゴミ問題をひとつとして武蔵野市は捉えている。</p> <p>どのような根拠で取り組んでいくのかについて、武蔵野市第六期長期計画においては身近な問題として捉えられており、また第五期武蔵野市環境基本計画においては新しいごみ問題として記載されている。エコレポートではこれまでの経緯を踏まえた市民参加型で問題解決に取り組んでいく。</p>

	<p>エコ re ゾートでの取組は低炭素社会の実現はもちろんのこと、4つのコンセプトを柱に、日々の取り組みを学び合いの場として捉える特性を生かしながら工夫して啓発する必要がある。多くの市民活動団体と意見交換をしてきた連携会議は、活発な意見交換が出来ていない現状もあるが、そういったものを生かしながら取組を進めていく。</p> <p>参考に代表的な関係団体が1番下を書いてあり、4つのコンセプトを実現するために、学びあい意見を聞きながら、身近な問題と大きな問題の双方を踏まえながら啓発を進めていく。</p>
委員長	<p>低炭素社会のモデルを作っていくというのが、このエコ re ゾートを議論していた時からの課題としてあった。簡単にできることではないが、身近な食品ロスから考えてみようということ。特に私たちの日常生活と非常につながりがあり、4番の「課題解決に向けて」に関していくつか関連活動団体、連携会議にも関連する部分があるので、そういった意見交換、みんなで考えて、そして食からつながっていく私たちの環境問題への対応を考えていく必要がある。この地域だけでなく、ほかの地域に影響を及ぼすということがあり、みんなで考えていく場として、このエコ re ゾートが活用できればと思う。</p>
委員	<p>食品ロスの大きな原因として、日々の食べ残しや賞味期限切れ、消費期限切れ食品が挙げられる。検討の際に、大きなテーマで捉えることはもちろん必要だが、具体的に身近なポイントを絞るとよいと思う。また、iisakai というフリーペーパーで境南小学校の児童が食品ロスについて調べた記事が載っている。そういった学校と連携してエコ re ゾートでも展示を行うことが出来れば、PR効果としても大きい。ぜひ検討いただきたい。</p>
委員長	<p>小学生がスーパーでレポートを書いているのを見たことがある。エコ re ゾートができて、武蔵野市のこどもエコクラブ参加者も増えており、柔軟な連携を考えていければと思う。</p>
委員	<p>エコ re ゾートでの取組で、関連活動団体と共に取り組むという部分はいいが、そこからいかに市民に広げていくか、市民に届ける方法がどこまでできるかに疑問を抱いた。関連団体が市民に広げていくのであればいいと思うが、市民から見て、市と関連団体だけが活動しているように見えてしまうと、本来の意味での市民参加型というところが薄れてしまう。団体に入らずとも、一般の方がエコ re ゾートに行き行って気軽に参加できる方法も大事である。</p>
委員長	<p>もともとこのエコ re ゾートは団体の活動の場ではないが、そういう人たちに音頭を取ってもらい、広く市民に行動変容を促していくという趣旨で書いている。</p>
委員	<p>対面で何かをするというのがまだ難しい状態であり、エコ re ゾートのオンライン版みたいな形のコミュニティを作るのも手段かと思う。いつ本当にやりたい活動が出来るかを議論して、結局箱物論争になってしまうのはもったいない。</p>
副委員長	<p>食品ロスのテーマは生活に身近な話題として、誰でも関心が持ちうるという意味で、中心テーマとしては適していると思う。食品</p>

	ロスそのものを個別に捉えるのみではなく、他の問題、例えば福祉や生活水準の問題とどの程度関連するのか、つながりを見られるといい。武蔵野市の実態調査の方法を確立し、経時的に見ていく必要がある。あらゆる場所や規模、あらゆる精度の情報をそのまま武蔵野市に当てはめることは適さない。
委員長	サンプリングの問題で、データを明らかにする必要がある。またエコ re ゾートにおいても、来館者へのアンケート等の取組を継続していただきたい。
2 報告事項	
事務局	資料 2 について説明。エコ re ゾートがモデルナ社製ワクチンの集団接種会場になるということが決定した。9 月 15 日から入場の一部制限を行い、一階は全面使用できない。資料や書籍を 2 階アーカイブに移設し、学習などに活用してもらう。
事務局	<p>資料 3 について説明。むさしの環境フェスタについて、ワクチン接種会場になったことも含めて、変更案を示した。エコ re ゾート館内及び芝生広場、どんぐり広場での出展及びイベントは中止。その代替案として商業施設へのアウトリーチを実施予定である。もともと予定していたトークイベントやワークショップなどイベントを、感染症対策を講じた上、外部で開催することを企画している。オンラインの企画は予定通り実施する。</p> <p>改めて、今回の環境フェスタの目的については、まず環境啓発、施設の PR、そして施設外への環境啓発施設機能の発揮の試行が挙げられる。本来はエコ re ゾートのコンテンツ充実してきた頃に、それを外部に出していくことを計画していたが、今回先だってアウトリーチとしての試行を目的とした。事業者と連携することで、今後エコ re ゾートが本格的に稼働した際のため、あらゆる可能性を作っておこうという意図もある。外部で行うポップアップは、エコ re ゾートをまだ知らない、情報を届けられてない層へ向けた発信を予定している。そこでの展示は、ワクチン接種会場期間が終了した後にエコ re ゾートで展示していく。</p> <p>イベントであるエコの実放送局は、環境に関する取組を行っている人物にラジオの公開収録のような形で事業内容や想いを聞き、その録音は Web に掲載することを検討している。オンラインはエコリファイルという企画名で、市内を中心とした環境に配慮した取組をしている事業者取材し記事にする。ファイリングして可視化するという意味でリファイルと名付けた。メイキング動画なども掲載予定で、取材にあたり、ユース記者という 10 代の記者を募集した。現在応募が 6 名ほど集まっている。</p>
事務局	資料 4 について説明。今年 3 年目を迎える環境の学校は 5 回の連続講座を経て成果発表をし、そのままエコ re ゾートで活動する修了生を育てることを目的としている。今年度は連続講座を環境問題のテーマというよりも、環境と地域、経済、社会といった違う領域との接点を中心に講師に話してもらう。例えば地域のテーマでは、水の学校の修了生にその回をサポートしてもらったり、経済のテーマでは市内で生産されているブルーベリーを用いて商品化しているパ

	<p>ン屋に話してもらったりなど、実際の暮らしの中での環境への接点を考えてもらう。現在 15 名参加だが、もう少し参加を増やしていければと思う。</p> <p>環境の学校 Green プロジェクトは、今年度からは環境の学校と同様に連続講座として実施する。エコ re ゾートの周辺の緑地に花壇を用意し一緒に草花を育てていくことや、各人がプランター持ち帰りイチゴを育てていくといった内容から、地域との接点を作っていくような形で進めていく。今のところ参加者は 13 名まで増えてきている。</p> <p>資料 5 について説明。緑のカーテン事業は昨年度、コロナの影響で配布を中止にした。エコ re ゾートの事業になってからは、育成のプロセスや緑のカーテンそのものを学びの材料にできればという前提でレポーターを募集し、苗を配布した。151 世帯（団体）に苗を配り、現在 96 件のレポートが集まっている。写真と一緒に文章でどのような状態かを提出してもらったが、複数日でまとめた形でのレポートや、絵手紙風のレポート、各回をタブレットなどで入力してまとめたレポート、カーテンのあるなしによる温度差を研究したレポートなど多様なレポートが集まった。提出されたレポートはエコ re ゾートで展示している。年度末の成果発表の場での報告も検討している。</p>
委員長	質問や意見はあるか。
委員	環境フェスタにおいて、エコの実放送局はどのような手段で聞けばよいか。
事務局	検討中だが、基本的には録音を web ページから聴ける仕様を考えている。
委員	むさしの FM で流してくれるとありがたい。
委員	環境フェスタの団体の出展中止は、参加を検討している団体へのアナウンスは予定されているか。
事務局	期間を変えて、ワクチン接種会場の期間が終わってから、団体の成果発表の場を設けるなどを検討している。
委員	所属している団体でも、環境フェスタの件がどうなったのか声が上がっていた。準備している団体もあると思うので丁寧に周知してもらいたい。
委員	緑のカーテンレポートで、小学生が夏休み自由研究としてやってくれたというのは非常にいいこと。費用対効果を考えると、よい P R になる。
委員長	スタッフもアドバイスをして、深い学びに繋がっていると推察する。
3 その他	
事務局	前回の運営会議で、今年度の会議スケジュールを示したが、10 月頃に予定していた研修は、エコ re ゾートが予防接種会場になったことと、緊急事態宣言が延長になったことを踏まえ見送りとする。
事務局	議事要録については、第 2 期運営会議第 1 回の議事録はすでにホ

	ホームページ上に掲載済み。今回の議事要録も確認後にホームページ上に公表される。
委員長	ありがとうございました。